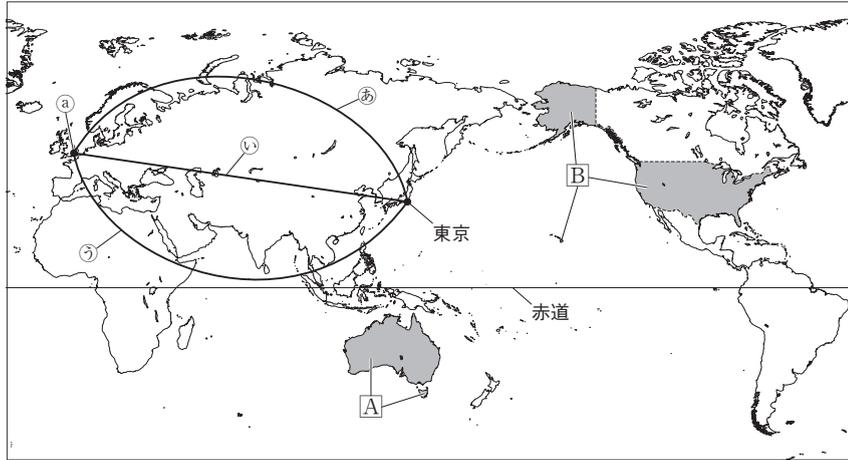


<b>12</b> 直前実戦問題②	クラス	番	得点	実施日
	氏名		/100点	/

1 地図Ⅰは、緯線と経線が直角に交わった地図であり、地図Ⅱは、東京を中心とし、東京からの距離と方位が正しい地図である。地図Ⅰ中の[A]、[B]は国を、地図Ⅰ、Ⅱ中の①は都市を、地図Ⅱ中の[X]は大陸を、それぞれ示している。これを見て、次の問いに答えなさい。

地図Ⅰ



地図Ⅱ



(1) 地図Ⅰ、Ⅱについて、次の問いに答えなさい。

- ① 航空機を利用して東京から①に行くときの最短経路を示したものとして最も適切なものを、地図Ⅰの②～④から選び、記号で答えなさい。
- ② 地図Ⅱ中の[X]は、世界の六大陸のうちの1つである。[X]の大陸の名称を答えなさい。
- ③ 地図Ⅰにおいて、赤道は直線で示されるが、地図Ⅱにおいて、赤道は曲線で示される。地図Ⅱにおいて、直線で示される線を、次から選び、記号で答えなさい。

ア 東京を通る緯線      イ ①を通る緯線      ウ 東京を通る経線      エ ①を通る経線

(2) 次の文は①の気候についてまとめたものである。文中の□P、□Qにあてはまる語句の組み合わせとして正しいものを、あとのア～エから選び、記号で答えなさい。

①は、大西洋を北上する□Pの北大西洋海流と、その上空を吹く偏西風の影響を受けて、□Q気候となる。

- ア P—寒流 Q—地中海性      イ P—寒流 Q—西岸海洋性  
 ウ P—暖流 Q—地中海性      エ P—暖流 Q—西岸海洋性

(3) 地図Ⅰ中の[A]、[B]について、次の問いに答えなさい。 資料Ⅰ

- ① [A]、[B]、日本は、アジア太平洋地域の経済協力のための会議に参加している。この会議の略称をアルファベットで答えなさい。

	生産量 (万t)	輸入量 (万t)	輸出量 (万t)	自給率(%)
[A]	1,760	80	988	204
[B]	5,237	482	2,847	175
インド	10,360	4	67	109
イギリス	1,623	252	171	99

(2019年)

(国際連合食糧農業機関資料)

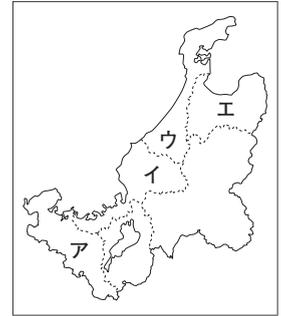
- ② 資料Ⅰは[A]、[B]、インド、イギリスの、小麦の、生産量、輸入量、輸出量、自給率を示している。資料Ⅰから、[A]や[B]と、インドやイギリスでは、小麦を生産するおもな目的が異なっていると考えられる。資料Ⅰから考えられる、[A]と[B]で小麦を生産するおもな目的を、[A]と[B]で行われている大規模な農業による小麦の生産費への影響に関連づけて、簡潔に書きなさい。

(1)	①	②	大陸	③	(2)	
(3)	①	②				

(3)①5点、(3)②6点、他各4点

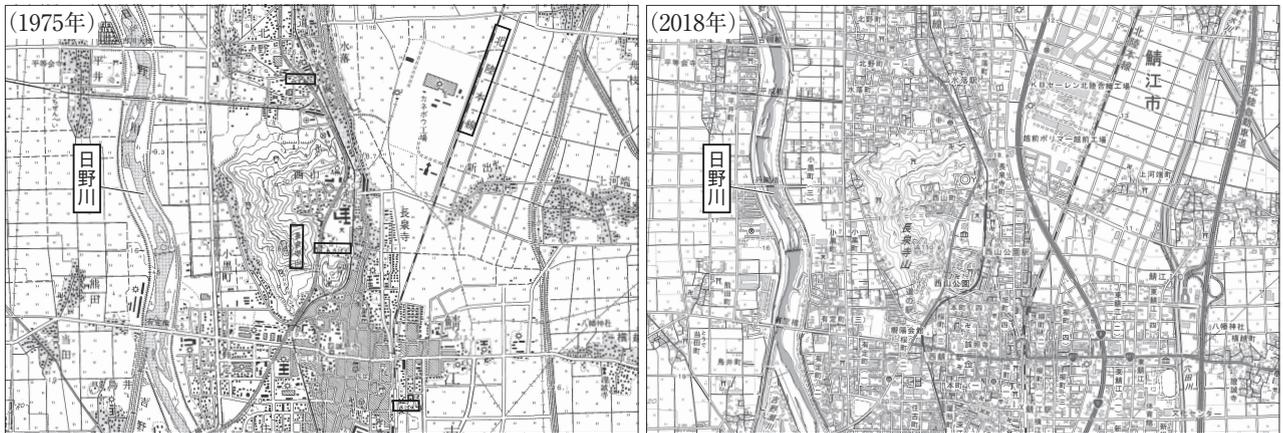
2 地場産業として眼鏡関連の工業がさかんな鯖江市について、次の問いに答えなさい。地図Ⅰ

- (1) 鯖江市が属する府県を、地図Ⅰ中のア～エから選び、記号で答えなさい。
- (2) 地図Ⅰ中のイ～エの県では農家の副業として地場産業や伝統産業がさかんに行われ、発達した。その理由を「季節風」「農作業」の語句を用いて簡潔に書きなさい。
- (3) 地図Ⅱは、鯖江市内の一部を示した2万5千分の1地形図である。1975年と2018年の地形図を比べて変化したことは何か、地図Ⅱから読み取れる内容として適切なものを、次から2つ選び、記号で答えなさい。



- ア みずおち(水落)駅から分岐する鉄道路線がなくなった。
- イ 長泉寺山の山頂の標高が約2m高くなった。
- ウ 北陸本線をまたぐ形で、北陸自動車道が建設された。
- エ 日野川にかかっていた有定橋がなくなり、平成橋と丹南橋がかけられた。
- オ しもさばえ駅は西山公園駅に名前が変わり、駅の近くにあった博物館がなくなった。
- カ さばえ(鯖江)駅の東側に広がっていた水田が、住宅地になった。

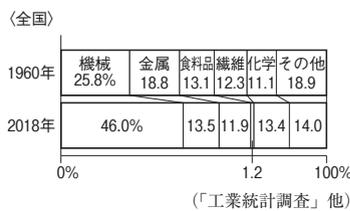
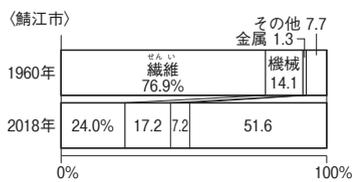
地図Ⅱ



(国土地理院昭和50年、平成30年発行2万5千分の1地形図「鯖江」)

- (4) 鯖江市と全国における工業出荷額について、資料Ⅰ、Ⅱから読み取れる1960年と2018年を比べた変化として誤っているものを、あとのア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

資料Ⅰ 工業出荷額の割合



資料Ⅱ 工業出荷額の総額

	1960年	2018年	1960年から2018年の伸び率
鯖江市 (眼鏡関連)	70億円 (9億円)	1,854億円 (529億円)	約26.5倍
全国	15.6兆円	334.7兆円	約21.5倍

(「工業統計調査」他)

- ア 鯖江市では、金属工業の割合が5倍以上になり、繊維工業の割合が半分以下になった。
- イ 全国では、機械工業の出荷額は15倍以上になった。
- ウ 全国では、金属工業や繊維工業の割合は低下し、化学工業や食品工業の割合は増加した。
- エ 工業出荷額の伸び率において、鯖江市が全国を上回ったおもな要因は、眼鏡関連の工業が伸びたからである。

(2)・(3)各6点、他各5点

(1)		(2)							
(3)			(4)						

3 右の略年表を見て、次の問いに答えなさい。

(1) 略年表中の下線部①が即位すると、が、<sup>せつしやう</sup>摂政となり、豪族のとともに政治を行った。、にあてはまる人物名の組み合わせとして正しいものをア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア A—<sup>なかのおおえのおうじ</sup>中大兄皇子 B—<sup>なかとみのかまたり</sup>中臣鎌足  
 イ A—中大兄皇子 B—<sup>そがのうまこ</sup>蘇我馬子  
 ウ A—<sup>しやうとくたいし うまやどのおうじ</sup>聖徳太子(厩戸皇子) B—中臣鎌足  
 エ A—聖徳太子(厩戸皇子) B—蘇我馬子

(2) 資料Ⅰは、略年表中の下線部②が栄えたころにつくられた、の姿を表した彫刻である。は、日本における仏教の発展に貢献するため、。、にあてはまる語句の組み合わせとして正しいものを次から選び、記号で答えなさい。資料Ⅰ

- ア X—<sup>くうかい</sup>空海 Y—<sup>とう</sup>唐から来日した  
 イ X—空海 Y—<sup>けんとうし</sup>遣唐使とともに唐に渡った  
 ウ X—<sup>がんじん</sup>鑑真 Y—唐から来日した  
 エ X—鑑真 Y—遣唐使とともに唐に渡った



(3) 略年表中の③の期間におこったできごととして

適切なものを、次から2つ選び、年代が古い順に左から並べ、記号で答えなさい。

- ア <sup>おうにん</sup>応仁の乱が始まった。 イ <sup>ひらのきよもり だいにじやう</sup>平清盛が太政大臣となった。  
 ウ <sup>ふじわらのみちなが</sup>藤原道長が摂政となった。 エ <sup>じやうきやう</sup>承久の乱がおこった。

(4) 略年表中の下線部④のできごとのあと、<sup>ごだいご</sup>後醍醐天皇は、<sup>くけ</sup>公家を重んじる政策を行うなど、<sup>ちやうてい</sup>朝廷中心の新しい政治を始めた。この政治は、一般にの新政とよばれている。にあてはまる語句を答えなさい。

(5) 略年表中の下線部⑤の政策として最も適切なものを、次から選び、記号で答えなさい。

- ア オランダ商館を長崎の出島に移した。 イ <sup>てんしやうけんおウ</sup>天正遣欧少年使節を派遣した。  
 ウ バテレン追放令を出した。 エ <sup>みん かんごウ</sup>明との間で勘合貿易を始めた。

(6) 資料Ⅱは、<sup>まつえはん</sup>松江藩の、1768年10月から1769年9月 資料Ⅱ

における、支出総額に占める項目別の割合を表した

領地と江戸の往復にかかる支出			その他 2.4
家臣に与える給与 43.6%	江戸での支出 29.3	領地での支出 20.1	4.6

グラフであり、下の会話文は、直子さんと先生が、

グラフを見ながら、略年表中の下線部⑥が定めた制度について話をしたときのものである。文中のにあてはまる語句を答えなさい。

直子さん：このグラフから、<sup>えど</sup>江戸の政治について、どのようなことがわかるのでしょうか。  
 先生：⑥は<sup>ぶけしよほつと</sup>武家諸法度においてとよばれる制度を定めました。グラフを見ると、この制度は、約130年経過したあとも、<sup>いしよ</sup>維持されていたことがわかります。

(7) 次の文は、略年表中の下線部⑧について述べたものである。文中のに適切な内容を書き入れて文を完成させなさい。ただし、には、「幕府」「外国船」の2つの語句を用いること。

⑧がおこると、<sup>たかのちやうえい わたなべかさん</sup>高野長英と渡辺華山は、ことを批判する書物を書いた。このため、彼らは幕府から厳しい処罰を受けた。

(3)5点、(7)6点、他各4点

(1)	(2)	(3)	→	(4)	の新政	(5)
(6)	(7)		こと			

4 資料Ⅰ～Ⅲは、生徒が「日本の労働と雇用」についてのレポートを作成するために集めたものの一部である。資料を見て、あとの問いに答えなさい。

(1) 次の文は、生徒が資料Ⅰの失業率のグラフを用いて作成したレポートの一部である。文中の 、 にあてはまる語句の組み合わせとして正しいものを、あとのア～エから選び、記号で答えなさい。

失業率について、2008年から2009年にかけての変化を見ると、日本およびOECD加盟国平均ともにしている。このことから、2008年から2009年にかけては世界的にであったと考えることができる。

- ア A—上昇 B—好況 イ A—上昇 B—不況  
ウ A—低下 B—好況 エ A—低下 B—不況

(2) の文は、生徒が資料Ⅰのうち、年間労働時間のグラフを用いて作成したレポートの一部である。文中のにあてはまる語句として最も適切なものを、次から選び、記号で答えなさい。

- ア 育児や介護にともなう休業の取得推進  
イ オンブズパーソン制度の導入  
ウ 育児・介護休業法の制定  
エ インフォームド・コンセントの実施

年間労働時間は、景気の動向など、様々な要因で増減すると考えられる。近年、日本の年間労働時間がOECD加盟国平均よりも減っている要因の一つとしては、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、企業がなどの取り組みを進めていることもあげられる。

(3) 右の文は、生徒が資料Ⅰに関して、労働

者の権利について発表した際のメモの一部である。文中の、にあてはまる語句や数字の組み合わせとして正しいものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

賃金や労働時間などの労働条件は労働者と使用者が対等の立場で取り決めることが労働基準法に定められている。しかし、現実にはに対して弱い立場にあるので、この法律では使用者が労働者を解雇する場合に予告が必要であることや、使用者は労働者に1週間について時間をこえて労働させてはならないことなども定められている。

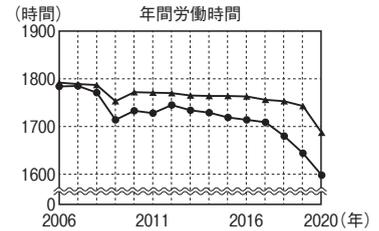
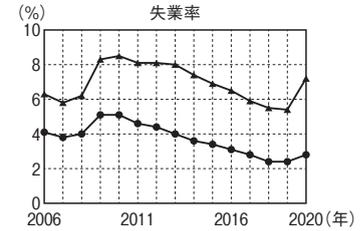
- ア C—使用者は労働者 D—80 イ C—使用者は労働者 D—40  
ウ C—労働者は使用者 D—80 エ C—労働者は使用者 D—40

(4) 次の文は、生徒が資料Ⅱ、Ⅲのグラフについて発表した際のメモである。文中の、にあてはまる語句の組み合わせとして正しいものを、あとのア～エから選び、記号で答えなさい。

資料Ⅱのグラフからは、半数近くの若者が初職をで離職していることがわかる。また、資料Ⅲのグラフからは、使用者と労働者のそれぞれが仕事の上で向上させたい能力・意識に違いがあることがわかる。特に「協調性」や「粘り強さ、忍耐力、継続力」については、よりも向上させたいと考えている。

- ア E—1年未満 F—使用者は労働者  
イ E—1年未満 F—労働者は使用者  
ウ E—3年未満 F—使用者は労働者  
エ E—3年未満 F—労働者は使用者

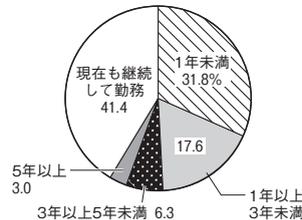
資料Ⅰ 失業率と年間労働時間の推移



(注)「OECD(経済協力開発機構)」は日本を含む先進国を中心に構成される国際機関で、加盟各国の政策の分析等を行っている。

(OECDホームページ)

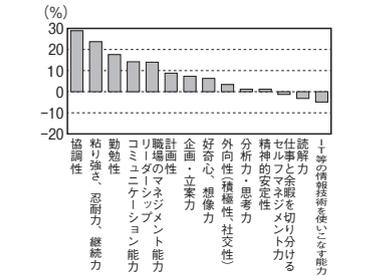
資料Ⅱ 若者(16～29歳)の初職の就職から離職までの継続期間



(注)「初職」とは学校等を卒業または中途退学した後の最初の就職先を示している。四捨五入の関係で、合計しても100%にならない。

(2018年版「子供・若者白書」)

資料Ⅲ 使用者(企業)と労働者(正社員)が向上させたい能力・意識に関して生じている認識の差



(注)それぞれの項目について、使用者が「正社員に向上させて欲しい」と考える能力・意識として回答した割合から労働者が「向上させたい能力・意識」として回答した割合を差し引いた数値を示している。

(2019年版「労働経済白書」)

各5点

(1)	(2)	(3)	(4)
-----	-----	-----	-----